

八尾市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅 ニュースレター

NEWS LETTER

発行部数 3,000 部

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 49

2021年12月発行

令和3年度 夏季企画展
みんなの戯画展

秋季イベント特集
うえまつ劇場・
古民家フォーラム・
植松灯籠の日

連載コラム
「落穂拾い - 今東光の薫風 - (四十三)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

展示のご案内

旧植田家にのこる昔の家電を集めました。

ソケット
電球

電化?

冷蔵庫

電化!

電気炊飯器

レコードプレーヤー

電子ジャー

電化!

電気ヤグラゴタツ

内型七輪

◆冬季企画展◆

昔のくらし、
電気のあるくらし

令和4年(2022年)
1/5(水)～3/21(月)

休館日: 火曜日、2月14日(月)・24日(木)

〈開館時間〉9:00～17:00(入館は16:30まで)

〈入館料〉一般250円、高校・大学生120円、中学生以下は無料

八尾市指定文化財
安中新田会所跡 旧植田家住宅

(認定管理業者: NPO法人HICAL)

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25 <http://kyo-uedakejutsuko.jp/>

- 冬季企画展「昔のくらし、電気のあるくらし」2022年1/5(水)～3/21(月・祝)
旧植田家にのこる電気を使わない道具と電化後の道具(電化製品)を比較して展示します。
- 通常展「大和川付替えと植田家の收藏品」3/25(金)～4/25(月)
大和川付替えの歴史や旧植田家に関するオリジナルのパネルと一部收藏品を展示します。

※休館日はP15をご覧ください

Contents

- 4 令和3年度 夏季企画展
みんなの戯画展
- 6 座敷でゆったり講座2
幻の銭湯“龍華湯”と大工・森口留吉について
- 7 久しぶりの
ぶらり大和川～太田・沼周辺～
- 8 秋季イベント特集
うえまつ劇場・古民家フォーラム・植松灯籠の日
- 10 大阪教育大学 教育コラボレーション演習
- 11 日日植田家住宅 第6日:いろんな「流」れの中で
- 12 四会所だより(29) 加賀屋新田会所
- 13 植ちょピ
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (四十三)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



表紙写真



ギャラリーにて
バックナンバーを一部配架中※

※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからもダウンロードできます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

伝 雪村《破墨山水図》

墨の点と濃淡だけで立体感を表わす破墨の画法を用いた山水図(伝 雪村[1492?-1589?])。水に浮かぶ舟や旅姿の人物も筆でコミカルに表現している。夏季企画展「みんなの戯画展」は4-5頁を参照。



本物の偽物、偽物の本物。

令和3年度 夏季企画展

みんなの

ぎ
戯

が
画

展



金毘羅土産 十八化



伴林光平之書画

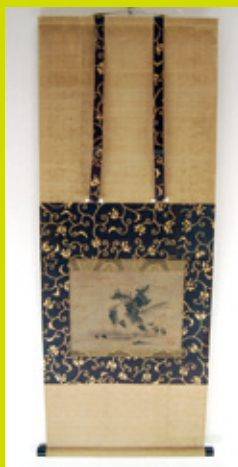
2021年

7月29日(木)～10月3日(日)

偽画？いえいえ戯画です。



伝 谷文晁・酒井抱一ほか(合作)



伝 雪村《破墨山水図》



伝 狩野探幽・尚信・安信(合作)



伝 松村呉春《巖上之鷹図》



←「戯画展
展示品目録」

令和3年度 夏季企画展 みんなの戯画展

どのような物にも何らかの「価値」が付与され、「価値のないもの」もまたひとつの価値観である。昨今、書画や美術・工芸・骨董品などでは特にこの価値が重視され、「本物」であることが良いとされている。旧植田家住宅所蔵の掛軸の中には、いわゆる「偽物」(書画鑑定の結果)といわれるものも存在するが、それらは本当に無価値なのだろうか。現代の価値観ではなく、「本物の偽物」(いわゆる贋作)もまた「偽物の本物」(オリジナルとは違う別のオリジナル)であるといえる。これらは人に喜びや感動を与えることもでき、旧植田家においては往時の生活のあらゆる場面で大切に用いられてきた。本企画展ではこれを「偽画」(偽物の絵画)と言わず「戯画」(戯れの絵)と位置付けて展示を行なった。

【展示品の特徴】

旧植田家住宅では2010年に掛軸・扁額・屏風など約300点以上の書画類に対し、プロの鑑定士による真贋鑑定を行なった。その結果、多くは本物(真作)または不明であると考えたが、偽物(贋作)もみられる。これらはいくまで



《三神之図》



《雨中漁舟山水》



《寿老人図》



《捉月猿侯図》



《猿図》



《水仙・達磨・竹菊》(三幅対)



この中に1点だけ真作(本物)があります。



《三駒之図》



《布袋図》



《四福神図》(三幅対)

美術的価値に基づく真贋結果であり、文化的・資料的価値とはまた別のものである。

本展では、1点を除いて、全て作者不明か贋作とされた掛軸(作者名の前に「伝」(〜)の作と伝わっている)の意味)を表記)を展示した。これらの多くは元の箱に「春夏秋冬」の季節や「仏事」などの文字が墨書きされた紙が貼られている。これは意味あるものとして旧植田家が日常の中で「時」に合わせて掛軸を掛けかえたものと想像ができる。

また「伝 狩野探幽・尚信・安信」三兄弟や「伝 谷文晁・酒井抱一・大田南畝」の合作のように、贋作ではあるが、同時代に活躍した人物らの競演や、「伝 雪村」の破墨の画法を用いた山水図のように「その様なもの」が手近に鑑賞できるのも特徴であり、まさに「戯画」だといえる。

【本物の偽物、偽物の本物】

収蔵品の価値はひとつの視点ではなく様々な要素によって変わってくる。もちろん本物に勝る物はないが、「偽物」も見方を変えると「本物」となり、また新たな価値が生まれてくる。そこには人間の営みを感じられ、現代の私たちは「文化」としてその一部を受け継いでいる。

(学芸員 安藤亮)

ざしき 座敷でゆったり講座 こうぎ

(全3回)

風通しの良い古民家で



ゆったりと地域の歴史や文化に耳をかたむける。

第2回 幻の銭湯“龍華湯”と大工・森口留吉について 9/12(日)



「水風呂Tシャツ」で語る和田氏

座敷でゆったり講座2

「幻の銭湯“龍華湯”と森口留吉」

「冷冷た〜い水風呂」と胸元に大きく書かれた「銭湯服(Tシャツ)」を着て現れたのは、「座敷でゆったり講座」第2回講師の和田優人氏。八尾市に生まれ、幼少より銭湯に縁があったという和田氏は、設計の仕事などを経て、現在は銭湯の工務店に勤務する。銭湯好きが高じて職業にまでなった和田氏のライフワークともいえる「銭湯」が今回の講座のテーマであった。

古い町並みが残る植松には、明治から平成ごろ(最近)まで「龍華湯」という銭湯があったとい、現在は空き地となっている。地域の人たちの記憶にはまだ残されていると考えられるが、写真などの資料がほとんど残っていないことから「幻」の銭湯でもある。

関西の銭湯に詳しく、龍華湯について調査・



銭湯づくしの講座の様子

研究する和田氏が今回明らかにしたのは、この銭湯を建てた大工の森口留吉についてである。田井中村(八尾市)出身の森口は、登録有形文化財にも登録された大阪の美章園温泉や源ヶ橋温泉、そして大正3年の巨大娯楽施設ともいわれる築港大潮湯を建設した偉大な人物であり、何と龍華湯は森口が一番最初に手がけたと考えられる銭湯だったという。

当時は銭湯を中心に地域形成が進められたこともあり、龍華湯もその例に当てはまる可能性があるという。また建物については残念ながら現存はしていないが、航空写真に写る僅かな建物の影をヒントに「大阪銭湯の伝統形式」に基づいた建物の考察も行なわれた。

八尾の隠れた偉人の発見につながり、銭湯の奥深さにふれることのできた講座となった。

(学芸員 安藤亮)

久しぶりの

ぶらり大和川く太田・沼周辺く

昨年と今年5月に続いて新型コロナウイルスによる緊急事態宣言のため延期となった「ぶらり大和川」は、10月17日(日)に約2年ぶりの実施となりました。当日も、前日からの雨が集合1時間前まで降り続き中止が危ぶまれましたが、天気予報を信じ、絶好のまちあるき日和でした。

今回のコースは、旧大和川ではなく、現在の太和川に沿って八尾南・太田・沼の周辺を歩きました。集合場所の大正出張所(コミセン)前をスタートし、早速目の前には大和川が広がります。江戸時代に旧大和川の付替えで出来た人工の川で、今では当たり前の風景ですが、当時を想像するとその歴史の深さが感じられます。おなじみ北村茂章さんの説明によると「こんにやく橋」とよばれる簡易の橋もあったそうで、その痕跡を見ることができました。

大正小学校前を通り、下見では見つけられなかった旧の小学校跡の碑を発見。その後も様々な寺社仏閣や公園、墓地を巡って旧大乗川跡を辿ったり、最後は舟板塀の建物を探しました。久しぶりのまちあるきで、途中道に迷ってしまっ初めてのトラブルもありましたが、また来年も続けて実施したいと思います。

(スタッフ)

久しぶりの

やまとがわ

ぶらり大和川

太田・沼周辺

2021年10月17日(日)



舟板塀 1



舟板塀 2



大正コミセン前で集合



目の前に広がる大和川



太田尋常小学校跡の碑



旧大乗川跡と思われる道



道に迷ってからの寶殿神社



地域の歴史が分かる墓地



地蔵の横に公衆電話を発見



秋祭りは必見の太田八幡宮



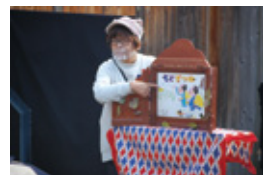
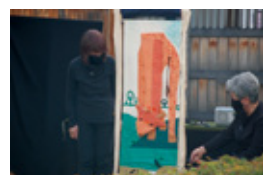
うえまつ劇場



～お庭で人形劇と紙芝居～



10/23(土)



初企画！
うえまつ劇場「お庭で人形劇・紙芝居」
「近くの渋川神社や植田家の庭で、人形劇や紙芝居が観れたら面白いよね」ということで、昨年企画しコロナで中止になった「うえまつ劇場」を今年初めて実施しました。八尾や周辺地域には音楽や舞台など文化芸術に携わる一般の方が意外に多く居られ、今回植田家スタッフの周りで人形劇や紙芝居をされている方々にご協力をお願いしました。

人形劇は「劇団あおむし」「人形劇のかざぐるま」「クレヨン」のみなさんと、紙芝居は個人で活動されている藤本陽子さんにお越しいただき、約一時間のプログラムを子どもたちと大人も一緒に楽しみました。屋外の公演はコロナ対策は安心で新鮮でしたが、風や日光の向きに気をつけなければならぬことが分かり、次回の課題となりました。また来年開催できれば、ぜひご家族そろってお越しください。植田家住宅でお待ちしております。



会場の様子

2021 河内の古民家を“まもり・いかす”ための発進プロジェクト

主催：河内の古民家めぐりネットワーク

ええやん！古民家フォーラム

11月7日(日)

◎八尾の古民家を“のこす・いかす・あそぶ”

フォーラム in 旧植田家住宅



河内の古民家めぐりネットワーク

ええやん！古民家フォーラム

コロナ禍以前は毎年スタンプリアリーを実施してきた河内の古民家めぐりネットワークでは、この度「河内の古民家をまもり・いかす」ためのプロジェクト」として、古民家を中心に各地域でのまちあるきやフォーラムを9月から行なっています。旧植田家住宅では「八尾の古民家をのこす・いかす・あそぶ」をテーマに11月7日(日)、第二弾の古民家フォーラムを開催しました。

パネリストに旧植田家元住人、指定管理者、八尾市住宅政策課職員の3名を迎え、各講演とパネルディスカッション(質疑応答)を実施。参加者からの質問も受け、異なる視点で古民家について知ることができました。



2/11(祝)開催の第4弾フォーラム「ポストコロナの文化遺産活用」

(夜間開館)

旧植田家住宅の^{とうろう}灯籠に^{あか}灯りを^{とも}灯す

植松灯籠の日

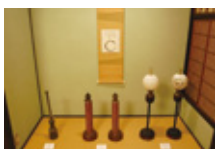
2021年11月20日(土)



●限定展示(主屋・座敷にて)

「ランプ(灯り)の“ミニ展”」

[協力: (株)WINGED WHEEL]



夜間開館

植松灯籠の日&ランプのミニ展

毎度おなじみ「植松灯籠の日(夜間開館)」を今年も「関西文化の日(無料入館日)」にあわせて11月20日(土)に行ないました。今回は八尾のランプメーカー(株)WINGED WHEEL(北亀井)にご協力いただき、毎回好評の「ランプのミニ展」を座敷で開催。いつもと違った和の雰囲気です。新たな魅力を感じることができました。

もうひとつのお楽しみといえば、主屋2階の影絵。今回は昨年と同じ図柄だったため、新たな試みとして庭の野外灯を「竹燈籠」風にデザインし、影絵と同時に楽しんでもらいました。

コロナ禍で今年も来場者は少ない様子でしたが、灯籠の灯りが私たちの心を癒し、暗闇を明るく照らしてくれました。



灯りが灯る常夜燈(植松灯籠)

ラム 植松灯籠の日(夜間開館) 秋季イベント特集

「旧植田家住宅」の魅力を引き出す

「教育コラボレーション演習」は、「地域の子供達への教育や生活を直接的・間接的に支えている様々な現場に本学の学生が赴き、年間30時間の教育協働体験学習(サービスマーケティング)を行う」(大阪教育大学教育協働学科「教育コラボレーション演習リーフレット」より引用)大阪教育大学が2019年度からスタートした教育プログラム。今回、旧植田家住宅では1名の学生を受入れ、通常業務からイベントのサポートなど幅広く活動を行なってもらいました。

旧植田家住宅×大阪教育大学 教育コラボレーション演習

展示用の解説とパネルを作成しました!

なかなか今では見ない、黒電話。
今回は旧植田家住宅で初めて黒電話の
使い方を教えてもらいました。やってみると
とても楽しかったので、ぜひ黒電話を知らない子ども
たちにも楽しんでもらいたいと思いました。



そこで、黒電話を使って119番(消防署)に通報する
手順を示した解説書と案内パネルを作成しました。
この解説とパネルの作成後、早速子どもたちが黒電話で
遊んでくれているそうです。

ぜひみなさんも黒電話を使いに来てください♪
大人の方もきっと「なつかしい〜!」となるはず!?
土蔵1 民具資料展示室の白いパネルが目印です!



黒電話で119番

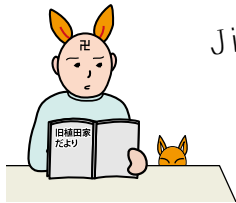
※実際にはつながりません



ここにあるよ!

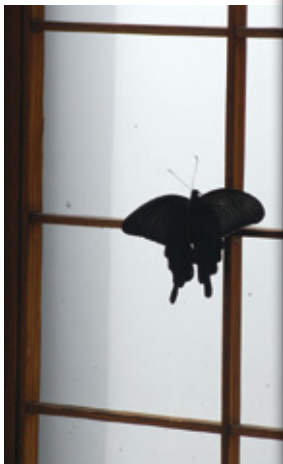
雑記帳
旧植田家住宅
 - 日常から日用まで -

第6日: いろんな「流」れの中で



Jin-ryu?

流、下流、激流、急流、濁流、交流、合流、支流、潮流、清流、海流といった水流や気流、雲流、電流、時流、我流、一流、二流、三流、一刀流、二刀流、自己流、独眼流などにも及びます。こうした言葉は日常の中でもよく使われ、流行の中で



厠(かわや)に迷い込む黒い蝶

【いまさらながら旧植田家住宅とは】

河内地域において太古の昔より自然の恵みとともに多くの水害をもたらした旧大和川は、宝永元年(1704)の付替え工事によって流路が変更され、人々の暮らしを大きく変えました。その歴史を伝える旧植田家住宅は現在、市の文化財施設として近世以降の時代や人々との交流によって支えられ、今日も様々な“人流”

旧植田家住宅×大阪教育大学 教育コラボレーション演習

わたの収穫、糸つむぎを体験しました!

船原香花(大阪教育大学3年生)



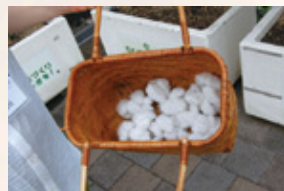
収穫(9月中旬)

わたの収穫という貴重な体験をさせてもらいました。開いたわたを少しつまむだけでスツととれて、とても楽しかったです。



豆知識

綿の花は1日でしぼみ、その後にはできるサクとよばれる実がはじけると、中からわたが溢れ出します。これを「綿が吹く」といいます。



とれた実綿

旧植田家住宅の「河内木綿体験」ではあらかじめ収穫した綿から糸にするまでを体験することができます。子どもも大人も熱中する綿繰りや糸車など昔の道具を使って糸を作ってみませんか? 手つむぎの糸は太さを均一にするのが難しく、きれいな糸を作りたくてつついハマります! みなさんもぜひ来てください。



糸車で糸つむぎ体験

「河内木綿体験」毎週第一土曜日(10時~16時)開催中

◎定員:1日5組 限定(一人でもOK!) ※定員になり次第終了

四会所だより (29)

北加賀屋新田今昔



毎年、「すみのえアートビート」(※)が名村造船所跡地で開催されます。今年も十一月十四日にあり、「住之江のまち案内ボランティアの会」は、例年通り近代化産業遺産に認定されている造船所跡地を案内しました。また、この機会に北加賀屋の歴史をパネル展示しています。

北加賀屋地域は名前の通り、元々、加賀屋家が累代開発してきた新田地帯でした。最初は天保二(一八三二)年に三代目甚兵衛の開発に始まります。幕末には木津川までの広大な新田が生まれています。木津川河口に築かれた突堤、名勝・千本松が間近にありました。明治に入ると、一部の新田が譲渡されますが、明治十二年の「永代田畑並建屋売買確証」には、二十四町余の田畑が二万二千二十八円程で売買されています。当時の一円が今の二万円相当としますと約四億円に当たります。

大正時代になりますと、造船業が奨励されて木津川筋には大小の造船所が建設されていきます。やがて、藤永田・名村・佐野安等の造船所に集約され、第二次世界大戦を経た後も造船の町として活況を呈しました。

一九七〇年代には船舶の大型化、オイルショック後の造船不況のため藤永田造船は吸収合併されます。名村造船所は佐賀・伊万里へ移転していき、その広大な跡地は残されたままになりました。

近年、北加賀屋地域は旧工業施設等を活用し、「アート」を中心にした町づくりが進んでいます。造船所跡地も「クリエイティブセンター大阪」として生まれ変わり、「アート」に従事する人々の活動拠点となっています。アートビートで新田開発の歴史を案内しましたが、帰りに南加賀屋にある新田会所跡に多くの方が寄られたと、後で知りました。

(住之江のまち案内ボランティアの会 渡邊義通)

※すみのえアート・ビート 大阪・住之江「北加賀屋にある近代産業遺産・名村造船所大阪工場跡を舞台に、毎年開催されるアートなお祭り。同実行委員会が主催。



すみのえアート・ビートの会場



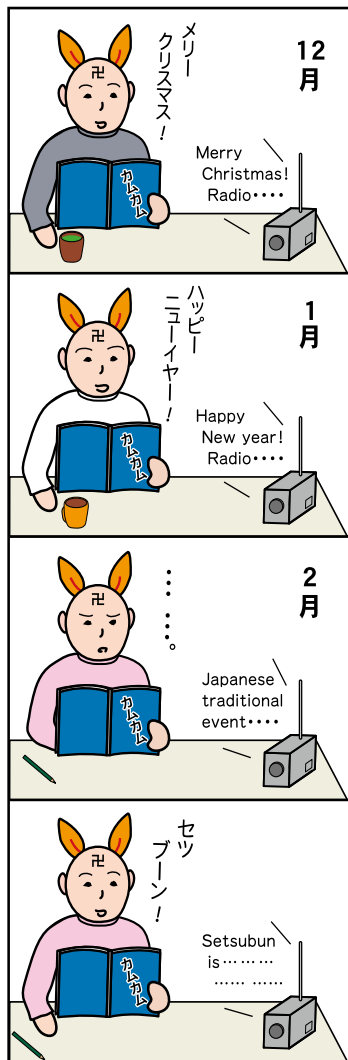
残された名村造船所跡地



新田の風景(「水都大阪と住吉」
(住吉歴史案内人の会)講演資料より)

マンジューくん

安富士 暁



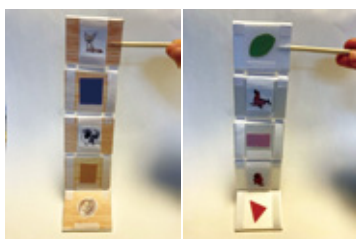
「植田住宅の・ちよっとした・トピックス」

植ちよぴ。(ックス)

・「土蔵でクラフト」でからくり玩具

|| 2021年8月7日(土)・18日(水)

例年、夏休みに開催する「土蔵でクラフト」では、身近にある素材を使った小物や玩具作りを行なっている。今回は8月7日(土)と18日(水)に、からくり玩具「とんだり跳ねたり」と「変わり屏風」に挑戦。前者は紙粘土で作った人形を固定した紙管に輪ゴムを括りつけ、からくりに応用。後者は定番の玩具だが、素材には展示等に使用した廃材パネルを利用した。どちらも参加した子どもたちの創意工夫によって、個性豊かな玩具が出来上がった。



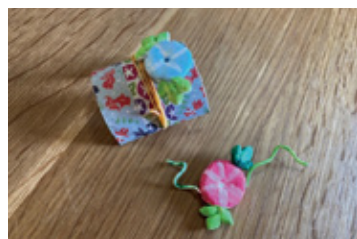
廃パネルを使った「変わり屏風」



紙管で「とんだり跳ねたり」



和紙のつなぎ合わせに苦戦



個性豊かなからくり玩具が完成

・「旧家で記念撮影〜七五三〜」でお祝い

|| 2021年11月3日(水)祝〜11月23日(火)祝

新型コロナウイルスの新規感染者数が少し落ち着きを見せ始めた頃、今年も「七五三」を記念し、晴れやかな衣装を着て撮影に訪れる家族の姿がみられた。特に今年は、時節柄、前撮りや後撮りもあり、子どもの成長を祝う気持ちの強まりが感じられた。

・「航空写真でみる八尾」で再発見

|| 2021年11月5日(金)〜12月24日(金)

ここ数年でも、八尾の風景は少しずつ変化している。毎年ギャラリーで展示する「航空写真」は、昭和三年から平成十九年までのまちの様子を三段階で映し出す。私たちの向かう先(未来)は分からないが、確かな変化を発見することができる。

.....

◆ 中止になったイベント ◆

8月

・夏のお茶会(協力:八尾高校)

9月〜10月

・防災! かまどでご飯炊き&避難訓練

・旧家で観月会(夜間開館)

・市内鉄道まちあるき

・旧家でコンサート

落穂拾い

― 今東光の董風 ― (四十三)

文・伊東健

聖徳太子が教科書で厩戸皇子と表記されて、その存在の疑わしさが通説になりつつあっても、二〇二一年は太子がこの世を去って千四百年忌という節目の年であり、ゆかりの地では様々なイベントが開催されています。

四天王寺と所縁の深い今東光が聖徳太子についてどのように考えていたのか、改めてあれこれ読んでいきますと、面白い文章を発見しました。一九五五年(昭和三十年)に「宗教公論」誌上で聖徳太子特集が組まれている中に、東光と前回紹介した郷土史家の牧村史陽が仲良く並んで寄稿していました。東光が書いたのは「太子と文藝」という一文でした。

文芸作品に現われた聖徳太子の古いものとしては、世阿彌の時代から、あまりへだたっていない頃に創作された「上宮太子」を挙げる事が出来る。しかしながらこれは

むづかしい語りもので、渋いものだけに、あまり謡われないということだ。その上に舞も無いものだから、尚更ら一般の人の耳に親しくないのである。

こついで幽玄なものは謡曲独自の世界のもので、寧ろ演能されない方が好いのだ。聖徳太子のような御方を、形で表現することは危険なことで、若し形に現わしたら、ぶちこわしだと思つ。(後略) 「太子と文芸」

昭和三十(一九五五)年四月発行『宗教公論』所収より

どことなく示唆に富んだ指摘ですが、この後さらに近松半二を中心とした人形浄瑠璃の作者たち、狂言作者である寺田兵蔵の足跡を記しながら、以下のように続けます。

その他の作者等についても詳しく探すと、もっと発見することが出来るかと思つが、大阪の文学者等が聖徳太子を描くことに、かくも熱情を抱いていたことを見出したことは僕の欣びとするところだった。しかも日本仏教にとつて最も偉大な足跡を残した聖徳太子のような御方を表現するのに、最も自由な、最も誇張することの出来る、最も非現実的な、人形によって試みたという点を

見遁してはならないのである。如何なる古今の名優が扮しても、聖徳太子を眼前せしめることは出来ないだろう。その限りで、これ等の芸術家が、人形の世界に逃避して、この大聖者を扱ったことは賢明だった。(前掲書より)

この頃の東光には自らも聖徳太子を書こうという意欲があつたことも明かしつつ、次のように文章を締めています。

僕は、ゆくりなくも河内国に住み、物部氏の故地を跋涉して、聊かなから史的手がかりを採拾しつつある。

若き日の聖徳太子が戦つた古戦場のあたりを徘徊しながら、はるかに生駒山脈の巖容を眺め、若き太子もまた剣に倚つて、この風光を望観せられたであろうと想像すると、いつの間にか千有余年の昔に返つて、僕もまた仏法の一闘士となつて、想いはこの河内野の古戦場を駆けめぐるのである。(前掲書より)

遂に書かれることのなかつた東光版聖徳太子物語ですが、東光が着眼した聖徳太子の精神性にこそ、長い年月においても人々の心に灯りを絶やさない something が宿っているように感じます。

植田家住宅のご案内

【2022年1月～4月】

これからの展示・イベント

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」

// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

展示

2022年

◎1月5日(水)～3月21日(祝・月)

冬季企画展「昔の暮らし、電気のある暮らし」

◎3月25日(金)～4月25日(月)予定

通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品」

コロナ対策(マスク着用・3密回避・人数制限など)実施につき、ご協力よろしくお願ひします。

展示、イベント等のお知らせはホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



イベント

(詳しくはお問い合わせください)

1月 ★1/5(水)～30(日) 旧家で記念撮影～新年・成人の日～

★1/5(水)～31(月) ギャラリー展示「新旧大和川と新田・会所の風景」

2月 6日(日) 旧家で芸能伝統文化～落語の会～

11日(金・祝) 展示解説の日～音楽の電化? 電子楽器テルミンを聴く～

★2/23(水・祝)～3/21(月・祝) 旧家で記念撮影～ひなまつり～

3月 5日(土) 講演会「伝統的な住まいで受け継がれてきた暮らしづくり」

6日(日) 石臼珈琲体験

20日(日) 今昔遊び体験「手習い所」(「むかし遊びの日」連動)

☆1/9(日)～3/6(日) 冬限定企画「旧家で暖家(あったか)支援」

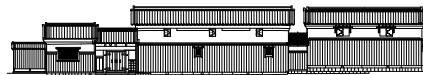
4月 未定

※予定は変更する場合があります。



休館日カレンダー

■ = 休館日



2022/ 1 January

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2 February

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

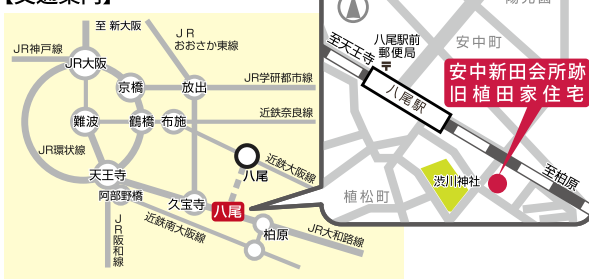
3 March

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

4月 未定

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

【交通案内】



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行
 JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。

●開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日：火曜日・祝日の翌日・年末年始
 (詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料：一般250円(団体20人以上で120円)
 高校・大学生120円(団体60円)

※中学生以下、身体障害者手帳等の所持者および介助者は無料

●お問い合わせ・見学のご相談(ご予約)

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX: 072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

#編集日記(12/20)

今年も残すところあと数日となりました。この一年を振り返ると、まさに「ウィズ・コロナ」の年で、これほどまでに「コロナ」のことを毎日思い、考えたことは今までになかったといえます。医療従事者の方々の尽力によりワクチン接種や治療薬の開発も進められていますが、一人一人の「忘れない力」が肝心であると日々思い知らされます。「心↑」を「心」くさず、新しい年を迎えたいと思います。年末の「忙しさ」に先を越されそうです。

本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、
地域経済を活性化させたいと思っています。

